

教育委員会教育長あいさつ



三次市教育委員会のめざすもの

三次市教育委員会 教育長
松村 智由

平成27年5月1日付で教育長に就任いたしました松村智由でございます。

三次市の次代を担う宝である子どもたちの将来を担保するため誠心誠意努力いたします。本市の教育に対しまして、どうか皆様方のご指導と、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成27年度、三次市のめざす子ども像は「ふるさと三次を愛し、誇りに思い、夢をもち学び続ける力と社会の一員として積極的に貢献する志をもった子ども」の育成です。言い換えますと、豊かな心をもち、主体的な学びができ、積極的な社会貢献ができる子どもたちをめざします。

三次市では、「教育とはひとつづくりであり、ひとつづくりはまちづくりの根幹をなすもの」と捉え、平成26年度から向こう10年間を見据えて策定した「三次市総合計画」に基づき教育行政を行っています。

教育を通してめざす三次市の姿は、「ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち」です。また、スポーツ・文化では、「学びたい気持ちを応援するまち」、すなわち生涯学習の観点でのまちづくりです。

教育では、3つのポイントがあります。

1つ目は、「ふるさと三次を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進」です。学校教育を通して、すべての子どもたちが基礎学力と基礎体力を身につけることが、将来の自分の夢の実現につながる大切な力、生きる力にもなるものです。

2つ目は、「学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化」です。子どもたちが、学校教育の前に接する大切な教育の場、それは家庭です。今年度、その更なる充実を図るため、三次市社会教育委員の皆様から「家庭教育に関する提言」としてご示唆いただきます。

3つ目は、「活力と信頼の学校づくり」です。教職員が使命感と意欲を持ち指導に当たることは、子どもたちの活力、ひいては地域の活力にもつながります。子どもを中心に、学校と地域が一体となった取り組みが好循環をもつことで、安心・安全で活力あるまちづくりにも発展します。身近で小さなところからでもできる持続可能な社会づくりと考えます。

社会教育を通してめざす三次市民の姿があります。それは「生涯にわたって自分をみがき、多くの人とつながりあうことをよろこびとし、協働して未来を切りひらくひと」です。

変化が激しい現代社会において重要なことは、学びたいときに学べる基礎学力を確実に身につけておくことと、社会の中で新しい学び、自分自身に必要な学びを習得するための「自発的な学習」です。学習を通じて新たな知識と豊かな感性を身につける機会を、一緒にアイデアを出し合いつくりたいと思います。

またスポーツの振興においては、みよし運動公園陸上競技場や野球場の効果的な活用を通して、さらなる「スポーツのまちみよし」をめざすとともに、スポーツを通じて子どもたちの夢を応援します。文化の振興においては、三次市民ホールでの発表や芸術鑑賞、奥田元宋・小由女美術館をはじめとする市内の美術館や資料館を有機的につなぐこと等で文化・芸術の創造や育成、発信を図ります。

さらに、三次市の宝である文化財や歴史を、市民の皆さんが楽しめる体験事業や、わかりやすい説明を広報することで、文化財の保護や地元三次を誇りに思っていただける気持ちを醸成していきたいと考えています。

今年度も、三次市の教育に対し皆様のご支援ご協力を賜りますよう、お願いします。